

浸水対策方針の比較

比較項目		原案	方針A	方針B	方針C
概要		<p>基本設計案</p>	<p>建物のみ に対して浸水対策</p>	<p>建物+敷地一部 に対して浸水対策</p>	<p>建物+敷地全体 に対して浸水対策</p>
	▼想定浸水レベル =T.P.+67.11	▲駐車場レベル	▲駐車場レベル	▲駐車場レベル	▲駐車場レベル
浸水の状況	建物1階床 計画レベル	T.P.+66.52 m 想定浸水レベル-0.59m	T.P.+67.17 m 想定浸水レベル+0.06 m	T.P.+67.17 m 想定浸水レベル+0.06 m	T.P.+67.17 m 想定浸水レベル+0.06 m
	想定最大規模降 雨時の敷地内の 状況	大部分が浸水するおそれがある	建物周辺以外の外構の大部分が 浸水するおそれがある。	外構の一部が浸水するおそれがあるが、 駐車場等の確保は可能	敷地の大部分は浸水しない。
日常利用	バリアフリー アクセス	敷地内に段差はない	主要道路から建物の出入口までに 高低差が発生する。 建物出入口付近に階段、スロープ を設置する必要がある。	主要道路から建物の出入口までに 大きな高低差は発生しない。 建物前の一部広場部分等に高低 差が発生するため、高低差を活かした 外構とする。	敷地内に段差はない。
期間	開発申請	-	-	-	開発申請等の協議が1年以上掛 かることが見込まれる。また、協議を 終えなければ、コスト、工期の確定 が不可
	設計	-	+6ヶ月	+6ヶ月	+6ヶ月以上※2
	工事	-	±0ヶ月	±0ヶ月	±0ヶ月 ※2
コスト	工事費	-	+0.3億円程度	+1.2億円程度	+1.5億円以上※2
コメント		-	建物床レベルと駐車場の高低差が 大きい。	豪雨時に庁舎機能の確保が可能。 敷地内の主要通路に大きな高低 差は発生しない。	事業の実現の見通しが困難であり コスト、工期への影響が大きい。

※T.P.：東京湾平均海面（Tokyo Pail）全国の標高の基準となる海面からの高さ
想定浸水レベルは、東京都建設局の浸水予想区域図に記載の浸水深（T.P.表示）により算出

※2：開発申請において、さらなる工事費の増加、スケジュールの延伸等が想定される。